



子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために!

敦賀市議会議員

豊田こういち レター

Vol.5

耳と目と心で聴くことを大切に!

この原稿を書いている日に消費税が10%になりました。増税により家計のやりくりが大変になってまいります。私ども議員ができることは、敦賀市の無駄遣いを厳しくチェックすることはもとより、議員自らの身を切る改革も率先して行うことで、少しでも市民の皆様にとって住みよいまちにすることです。そんななか、本年4月の敦賀市議会議員選挙は無投票でありました。そんな無投票の選挙で当選させていただいた若輩者で県外出身者ではありますが、この2期目の4年間も敦賀市のために、市民の皆様の声なき声を聴かせていただき、市政に反映させていただきたい所存です。何卒よろしく願いいたします。

市債(市の借金)は大幅に増える見込み!

(市債残高の推移)平成28年度・487億円 平成29年度・484億円 平成30年度・483億円 令和元年9月時点で、498億円ですが**令和2年度以降には、市役所の建替え、ごみ処理施設の新設、駅前の再開発・小中一貫校の新設…多額の借入が予定されています。**

(参考資料)敦賀市の歳出(支出)の合計額も、今年度から大幅に増加する見込みです。

平成28年度・555億円 平成29年度・559億円 平成30年度・590億円 令和元年度・616億円(令和元年9月現在の歳出合計額です)

これ以上、無駄遣いをさせないために!

「命のビザ」を持ったユダヤ人難民が上陸した港が敦賀市にあり、大正時代にはポーランド孤児を受け入れた港でもあります。ユダヤ人難民に対して、果物等の食糧を渡したり、銭湯を無償で開放したり…と、温かく受け入れたのが当時の敦賀市民であります。その人道の港といわれる敦賀市にある資料館が、「敦賀ムゼウム」です。私も何度か訪れましたが、本当に素晴らしい施設だと考えています。

昨年の議会では、今ある敦賀ムゼウムのほかに新たに4棟建設するための「敦賀ムゼウム整備事業費」が計上されました。その事業費は昨年末に一度反対多数で否決されましたが、年明けに臨時議会が開かれ賛成多数で可決されました。私たちが会派は最後まで反対しましたが、結果は可決され来年度にはオープンする予定です。私たちが反対した理由は、現在ある敦賀ムゼウムで十分素晴らしい施設であり、展示スペース等が不足しているのであれば、増築等に対応するべきとの考えに加え、**目標の10万人の来館者が来ても、毎年大きな赤字を試算していて、経済効果もあまり見込めないと判断**したからです。市民の皆様の利益になるような事業、例えば福祉や教育のために赤字を出すならいざ知らず、**観光客のために赤字になる施設を作ることには最後まで反対**を貫きます。

心にゆとりを持ってもらしてほしい!

敦賀市は、古代から海運が盛んで朝鮮半島や中国大陸の玄関口でもあり、関西方面と北海道の交易になくなくてはならない交通の要衝でありました。敦賀市は、多くの船荷問屋が北前船で財をなし成功を収めたことから、昔から豊かなまちであったと言えるのではないのでしょうか。豊かさとは、金銭的な余裕だけでなく、心のゆとりがある状態であると考えます。市民が豊かだったから、心にゆとりができて、誰にでも優しくなれたのではないのでしょうか。私は、敦賀市に住む皆様が心にゆとりを持って生きていていただきたい、そのために困っている人には適切な支援を行っていきたいと考えています。

私の話を例に挙げさせていただくと、会社を経営した当初は儲ければ社員の給料が上がりみんな幸せになると考えていました。しかし、何年か過ぎたあたりから、会社が世の中の役に立っているのか?と考えるようになりました。そんな思いで、被災地や障がい者施設でボランティアをはじめました。会社は黒字だったから、社員と一緒にボランティアを続けることができましたが、もし、会社が赤字だったら、ボランティアをやっている状況でなかったことは容易に想像できます。

現在敦賀市に限らず、日本全体で格差が広がっています。今後、本当に困っている人のために、それぞれが必要とする支援を行うことが、今以上に重要になってくると考えています。声の大きい人の声も大切ですが、**声なき声を聞いて、市民の皆様が心にゆとりを持って幸せに**
くらすことができる敦賀市にするために…。これからも取り組んでまいりたいと考えています。

では、観光には目を向けないのか?今後敦賀市をどうしていきたいのか?そのあたりを裏面に書かせていただきます。



敦賀市をどうしていきたいのか？

敦賀市には、すでに素晴らしい施設がたくさんあります。前述した現敦賀ムゼウムはもちろん、敦賀鉄道資料館、敦賀赤レンガ倉庫、リラ・ポート、リラ・グリーン、日本海さかな街…、そして何より敦賀市には日本三大松原の一つである気比の松原をはじめ、豊かな自然があります。そんな素晴らしい**自然や既存施設を最大限に活用すること**が何より重要だと考えます。

先日、東浦の海岸へ、三男と四男を連れて行ったときに、愛知県から来られていた釣り人に、「私たち釣り人にとって、敦賀市は楽園です」と言われました。「定年退職後に移住も考えている」とのお言葉も。自身のボートに私の息子たちも乗せてくれました。私自身、大阪から敦賀市へ移住して、敦賀市の自然に魅せられました。

これから日本全体で人口減少が進んでいきます。敦賀市がどう頑張っても人口が減少することは間違いありません。人口が減少する将来をしっかりと見据えて、本当に必要な投資のみを行い、できるだけ支出を減らすことに頭をめぐらせて、敦賀市に住んでいる皆様が、ゆとりを持って幸せにくらす方策を考える時が来ているのではないのでしょうか。

私は、観光客のためのハコモノ投資を続けることには反対しますが、子どもたちのために、老朽化した学校給食センターの建替えや、敦賀市にある全ての小学校区に「子ども食堂」を作りたいと考えています。その方が、子どもたちの郷土愛が生まれ、子どもたちの道德教育になると考えています。



9月定例議会：一般質問

持続可能な公共交通について

高齢化が進む敦賀市において、社会保障制度の見直し拡充はもちろん、移動手段等の生活支援の拡充が急務であります。市民の利益を追求することが、私たち議員の一つの務めですが、例えばバスの運賃を据え置くことが市民の利益に繋がるのか、運賃が多少上がってもサービスの向上等により、市民の利益に繋がるのか等を真剣に考える必要があります。そこで、現在のバス事業では、市民部、観光部、教育委員会と所管が3つにまたがっている状況を、市民の利便性向上や、予算の効率化により持続可能な公共交通に向けた取り組みとして、市民生活部に統一するよう提言しました。福井市では公共交通政策が都市戦略部の所管なのに、コミュニティバスだけが商工労働部の所管になっていることが問題視され、将来的な都市戦略部への移管を表明しています。



知識と経験は違う!!

「知っていることと経験したことは違う」先輩議員に教えられてからずっと意識している言葉です。この言葉通り知識に頼らず、何事も現場に入って経験することに努めています。そんななかで、困っている市民の方々から相談を受けることがありますが、そのなかには生活に困っている方も少なくありません。市の担当課は相談へ行くと丁寧に対応してくれ、職員の皆様には毎回本当に頭が下がります。今回質問させていただいた「持続可能な公共交通」についてもそうですが、このまま観光分野やハコモノに予算を投入していると、市民にとって本当に大切な公共交通や福祉分野等の予算が益々削減されることが予想されます。市債や歳出は益々増加していく現状のなかで、子どもや孫の代につけを残さないように、これからも議員活動に取り組んでまいります。

私事ではありますが、4人の息子の通学等を考慮して、足田から古田川へ引っ越しさせていただきました。(住所は下記に記載)

豊田こういちレター Vol.5

2019年10月1日発行
発行責任：同志会
編集責任者：豊田耕一

子どもたちが、故郷で健やかに育っていくために!

敦賀市議会議員 **豊田 耕一**

〒914-0045 敦賀市古田川66-803-2 TEL.090-7116-9049
豊田耕一オフィシャルサイト: toyodakouichi.net
E-mail: inforu.toyoda@gmail.com
ブログ: <http://ameblo.jp/artracing>
日々の取り組みや、思いを毎日更新しています。



豊田耕一

検索

